

## 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果について

文部科学省が今年 4 月に実施した、平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

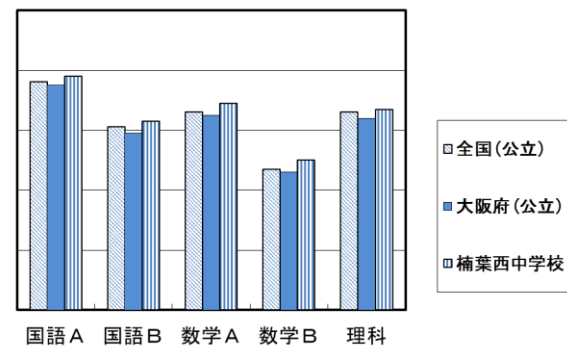
### 【全体概要】

#### 学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。

※調査結果について  
教科や出題範囲が限られていることから、  
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

平成30年度全国学力・学習状況調査(楠葉西中学校)



#### 【質問紙調査に見られる成果と課題】



#### < 学力調査結果の概要 >

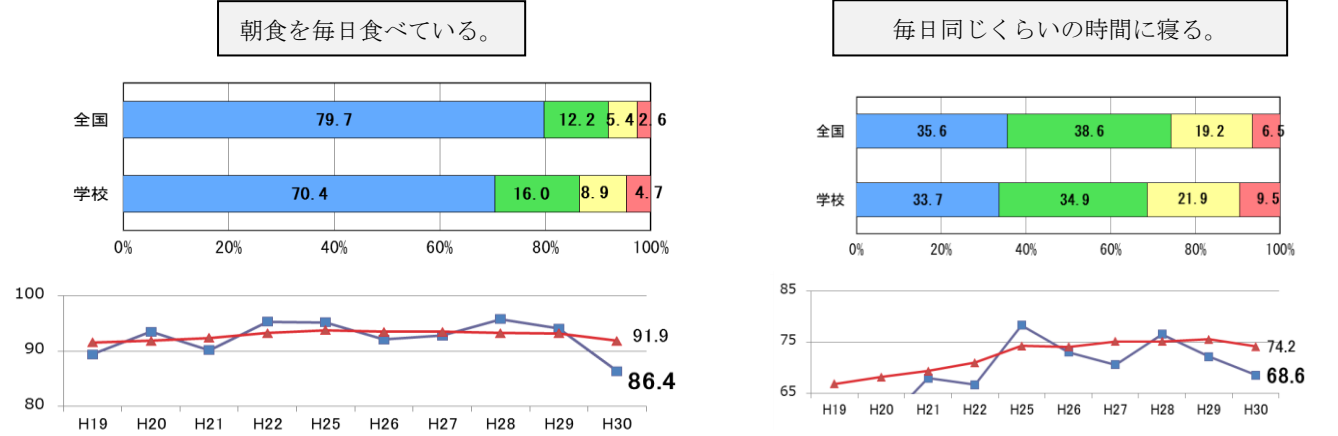
- 国語 A について  
→ 領域別・観点別・問題形式別において、すべて全国・大阪府の平均正答率を超えた。特に読むことや書くことに関しては比較的高い正答率であった。
- 国語 B について  
→ 領域別・観点別・問題形式別において、すべて府平均を上回った。全国平均と比較してもほとんどが上回っているが、問題形式別の記述式のみ 0.6% 下回る結果となった。簡単な記述はできるが、自分の考えや意見を書く記述式の問題に課題がある。
- 数学 A について  
→ 領域別・観点別・問題形式別において、すべて全国・大阪府の平均正答率を超えた。特に、図形についてはかなり高い正答率となった。問題別に見ると、数と式では、おおむね良くできているが、**1** (4) のように、正負の基礎知識を問う問題で正答率が全国・大阪府ともに下回る結果となった。関数においては、**1 2** の問題で正答率が低く、1 次関数の変化の割合の意味の理解に課題があった。
- 数学 B について  
→ 領域別では関数以外、観点別・問題形式別の区分で全国・大阪府の平均正答率を超えた。領域別の関数で 0.2% 全国平均を下回る結果となった。形式別に見ると、記述式の問題に成果が見られた。しかし、**3** (3) は全国・大阪府の平均正答率を上回っていたものの、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する記述問題に課題があった。
- 理科について  
→ 「知識」に関する問題と「活用」に関する問題、ともに大阪府・全国平均を上回った。物理・化学・地学・生物の全分野で全国平均をわずかに上回ったが、評価の観点別に見ると、科学的な思考・表現に関する問いで成果があった反面、観察・実験の技能については、課題があった。

※本調査は、平成 19 年度から実施されています。  
※平成 23 年度は中止(東日本大震災)、平成 24 年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

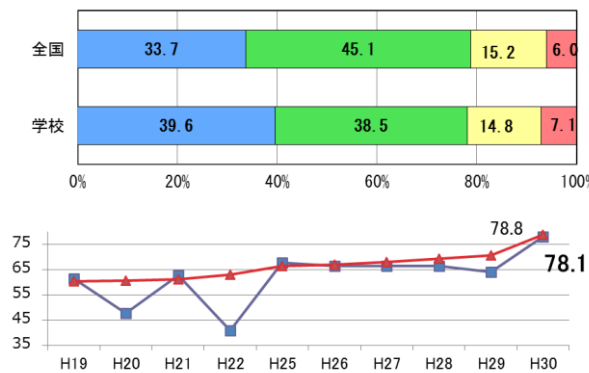
#### 質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。  
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。  
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は 100 にならない場合があります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。



#### 自分にはよいところがあると思う。



#### 将来の夢や希望を持っている。



#### < 質問紙調査結果の概要 >

- 生活習慣および学習習慣について・・・部活動参加率が全国平均よりやや高いにもかかわらず、学習塾や習い事(スポーツ以外)に通う生徒の割合が全国に比べて非常に高い。また「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時間に寝る」の項目については昨年度より低い結果となった。
- 自尊心について・・・昨年度の課題であった「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」の項目については大きく改善された。
- 規範意識について・・・本年度については、一部の生徒に服装などの身だしなみや自転車通学が見られるなど、「学校の規則を守っている」の項目については肯定的に回答する生徒が昨年に比べて減少した。

#### まとめ

学力調査の平均正答率においては、全国・大阪府の平均をわずかに上回った。質問紙調査の「自分にはよいところがあると思う。」の項目は肯定的に回答している生徒の割合が高かった。活躍や成功を積極的に褒めてきた成果といえる。新学習指導要領を見据え昨年度から全校的に授業改善に取り組んでおりその成果が少しずつ「将来への夢」や「自尊心の向上」等に現れてきている。しかし学力面の結果については、短期間の取り組みのため十分に反映することができなかった。今後更に授業改善をすすめ、生徒の思考力・判断力・表現力を培い、これからの社会を担っていく生徒を育てていく。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語A> (主に知識に関する問題)

成果や課題があった設問

【成果】 8四2 目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く

2 「心を打たれた。」を文末に用いた一文を書きなさい。  
 なお、「心を打たれた」の主語を明らかにした上で、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書くこと。

	正答率	無解答率
本校	32.2	1.8
全国	22.3	6.5

(考察)  
 当該問題の前に「心を打たれる」の意味を問う問題がある。その正答率が95.9%と全国平均を上回っていた。意味を理解していないと当該問題は解けない。普段から辞書を引かせて意味調べをさせる活動を取り入れていたためだと思われる。そのため、「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く」問題も無解答率が低く、正答率も全国平均を上回ったと考えられる。

【課題】

8五 行書の基礎的な書き方を理解し、作品への助言として適切なものを選択する

- ①の部分は筆順を意識して、次の画へのつながりが分かるように書きなさい。
- ②の部分は文字の全体の大きさに気をつけて、偏りも小さく書きなさい。
- ③の部分は点画を省略せずに、楷書で書くときの筆順どおりに横画を最初に書きなさい。
- ④の部分は左下に向けて払い、次の字につながらないように書きなさい。



【作品】

五 書写の時間に、「野花」という文字を書いた松田さんは、「作品」をよりよくするために「助言」をもらっています。この「作品」への助言として最も適切なものを、あとの1から4までの中から1つ選びなさい。

	正答率	無解答率
本校	43.9	0.6
全国	54.4	1.2

(考察)  
 行書の基礎的な書き方を理解し、作品への助言として適切なものを選択する問題で課題が見られた。誤った解答をした生徒の内訳が2は22.8%、3は21.6%、4は11.1%という結果になっている。運筆や点画の諸略など行書の基礎的な書き方について細かく指導していく必要がある。

<国語B> (主に活用に関する問題)

成果や課題があった設問

【成果】

1 - 文章とグラフの関係を考えながら内容を捉える

- 1 線部①「本来の意味ではない(イ)」「上下を気にしないでよい」のグラフから分かることについて、文章中ではどのように説明されていますか。次の1から4までのうち、最も適切なものをつ選びなさい。
- 2 線部②「『分らない』と回答した人が1割弱」とは逆の意味で考えている
- 3 線部③「どの年代でも4人に1人以上の割合で、本来とは逆の意味で考えている」とは逆の意味で考えている
- 4 線部④「反対の意味だと考えている人と意味が分からない」という人を合わせると4割近い

※本文は著作権等の関係により掲載を控えます。

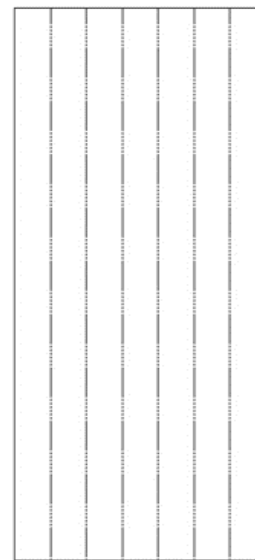
	正答率	無解答率
本校	54.4	0.6
全国	45.9	0.2

(考察)  
 「文章とグラフの関係を考えながら内容を捉える」問題では、無解答率が少し目につくものの、正答率は全国平均・府平均ともに上回る結果となった。グラフを読み取り、その内容を理解している生徒が多い。授業内でグラフの読み取りやグラフの効果などを考えさせる指導をしてきたからだと考えられる。

【課題】

1 三 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く

※本文は著作権等の関係により掲載を控えます。  
 三 この文章を読んで、「天地無用」という言葉を見たときに誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書きなさい。  
 なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてかまいません。  
 ※次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。



	正答率	無解答率
本校	11.7	8.8
全国	13.3	7.0

(考察)  
 当該問題は全国平均も低いですが、本校はそれを下回る結果となった。「天地無用」ということばを誤った解釈をしてしまう人がいる理由は二点ある。しかし、一点しかかけていない生徒が多くいた。内容を深く読み取る力とその情報を自分のことばで適切に伝える力をつけるための指導をしていく必要がある。



<算数(数学) A> (主に知識に関する問題)

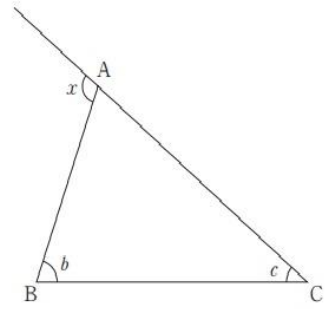
成果や課題があった設問

【成果】

6 (1) 三角形の外角を表す式を選ぶ

6 次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 次の図の△ABCで、頂点Aにおける外角∠xの大きさは、∠bと∠cを用いてどのように表されますか。下のアからオまでの中から正しいものを1つ選びなさい。



- ア  $\angle b + \angle c$
- イ  $\angle b - \angle c$
- ウ  $180^\circ - \angle b$
- エ  $180^\circ - (\angle b + \angle c)$

	正答率	無解答率
本校	82.5	0
全国	71.4	0.4

(考察)  
三角形における基礎的な知識が定着しているかを問う問題であったが、外角の公式として理解できていたため正答率が高かった。無解答率については記号問題のため、0%になっていると考察する。

【課題】

1 (2) 絶対値が6である数を書く

(2) 絶対値が6である数をすべて書きなさい。

	正答率	無解答率
本校	62.0	8.2
全国	69.0	7.3

(考察)  
1年で学習する内容だが、2・3年生ではあまり取り扱わない内容のため、知識として定着していなかったと考察する。しかし、基本的な内容なので定着できるように2・3年生でも復習していく必要がある。

<算数(数学) B> (主に活用に関する問題)

成果や課題があった設問

【成果】

4 (3) 平行四辺形を正方形に変えたときの四角形がどのような四角形になるかを説明する

(3) 前ページの問題では、優花さんの証明から「四角形ABCDが平行四辺形ならば、四角形EBFDは平行四辺形である。」ことがわかりました。  
問題の平行四辺形ABCDを正方形に変えると、四角形EBFDは平行四辺形の特別な形になります。四角形ABCDが正方形ならば、四角形EBFDはどんな四角形になりますか。「～ならば、……になる。」という形で書きなさい。

	正答率	無解答率
本校	49.1	24.0
全国	42.3	24.6

(考察)  
付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができるかを問う問題である。普段の授業で説明する力の向上に取り組んでいたため、基本的なことを説明する力が定着していたと考察する。

【課題】

3 (1) 列車の運行のようすが直線で表されていること的前提となっている事柄を選ぶ

(1) ダイアグラムでは、列車の運行のようすが直線で表されています。このように直線で表しているのは、次のように考えているからです。

列車の運行のようすが直線で表しているのは、  
□が一定であると考えているからです。

上の□に当てはまる言葉として正しいものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア 列車の速さ
- イ 列車の出発時刻
- ウ 列車の到着時刻
- エ 列車の走行距離

	正答率	無解答率
本校	65.5	0.6
全国	67.6	0.5

(考察)  
事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを事象に即して解釈することができるかを問う問題である。グラフから具体的に解釈する力が定着しておらず、傾きの意味を理解することができていなかったためと考察する。基本的な意味としての理解ができていないので、復習していく必要がある。

<理科>

成果や課題があった設問

【成果】

5 (2) 動物の刺激と反応に関する問い

**日常生活との関連も考える場面**

先生：「反応の時間を測定する装置」で刺激に対する反応の時間を測定したら、約0.2秒でした。



**【反応の時間を調べる方法】**

- ① スイッチAを押してLED（発光ダイオード）を点灯させる。
- ② LEDの点灯を見たらスイッチBを押す。
- ③ ①から②までの時間が表示される。

先生：ところで、バスの注意書きの「お客様へお断り」を見たことがありますか。なぜ断りかけてはいけないのでしょうか。生徒：信号を見てブレーキを踏むのが遅れるからだと思います。先生：なるほど。でも、信号を見てブレーキを踏むのが遅れることを確かめることはできません。そこで、運転中の運転士に話しかけてはいけない理由を探究するために、「反応の時間を測定する装置」を使って確かめることができる実験を計画しましょう。

**一方客席へお断り**  
運転中の運転士に話しかけないようにお願いします。

**実験の場面**

先生：私たちの実験の計画は、「運転士が信号を見てブレーキを踏む」ことを、 Y  こととして確かめます。スイッチ  Z  を押す人が話しかけられる場合と話しかけられない場合で、反応の時間を比べます。

(2)  Y 、 Z  に適するものを、それぞれのA、イから1つ選びなさい。

Y	A 「スイッチAを押してLEDを点灯させる」
	イ 「LEDの点灯を見たらスイッチBを押す」
A	A
Z	イ B

	正答率	無解答率
本校	70.8	0.0
全国	62.8	0.5

(考察)

反応の時間を測定する装置や実験を計画できるかどうかをみる問題である。Yイ、Zイが正答であるが、問題文及び図を見てどのような実験をすべきか考えられており、普段の実験の成果が出ていると思われる。また、無回答率も0であった。

【課題】

2 (2) (3.0%の濃度)

**3%の食塩水をつくる場面**

A  
水97gに、食塩30gを溶かしました。

B  
水100gに、食塩30gを溶かしました。

AとBとは、食塩水の質量パーセント濃度が異なりますね。

(2) 食塩水の質量パーセント濃度が低いものを、上のA、Bの中から1つ選びなさい。また、食塩水の質量パーセント濃度が3.0%のものを、上のA、Bの中から1つ選びなさい。

↑の問題

	正答率	無解答率
本校	39.8	1.8
全国	46.9	1.3

(考察)

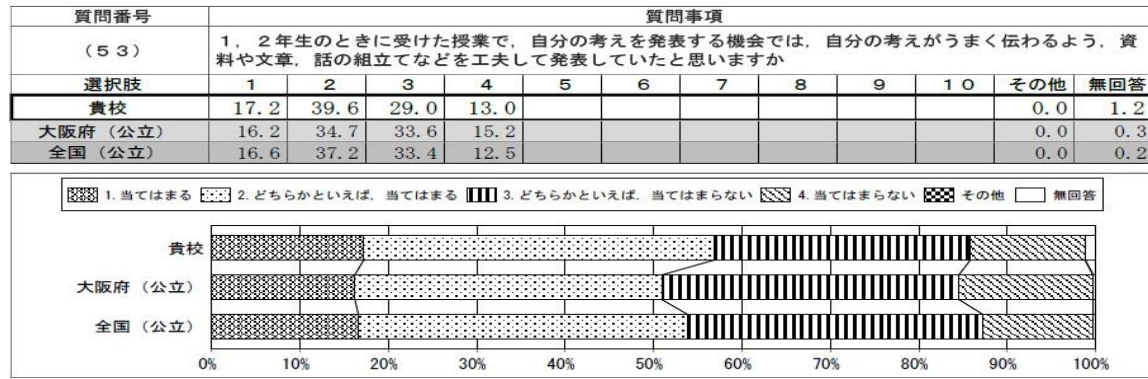
濃度を計算する問題である。正答はAであるが、Bを選んだ生徒が多かった。問題を注意深く見て、感覚的ではなく、公式を理解し問題に取り組むことが必要である。無回答率も比較的高く、理科における計算問題に対して苦手意識を持っている生徒が多いことがわかる。

# 質問紙調査について

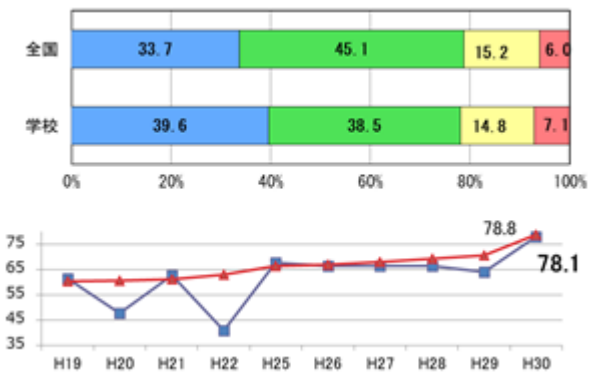
## 【成果のあった項目】

1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。  
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。  
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。



自分にはよいところがあると思う。

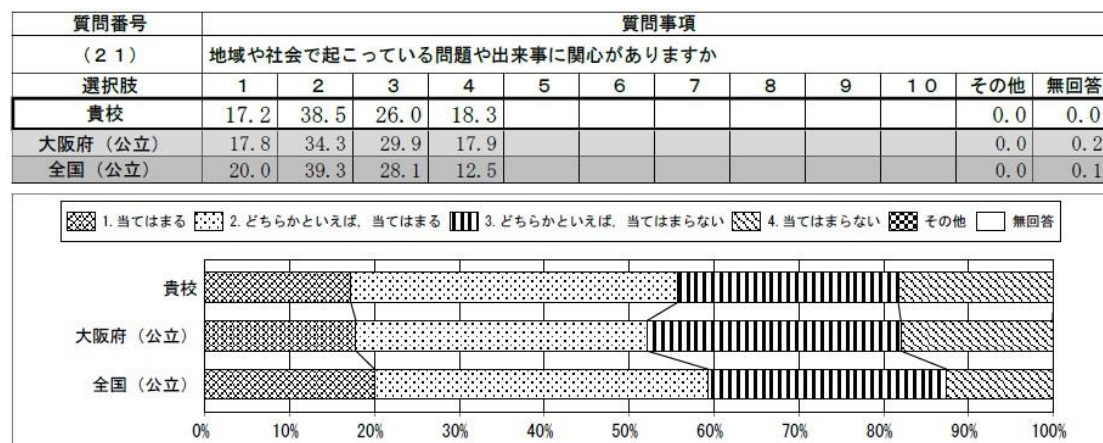


○思考力、判断力、表現力の育成について・・・  
 「自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりすることや「自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表していた」ことについては全国を上回っており、指導改善の取り組みの成果が現れてきている。

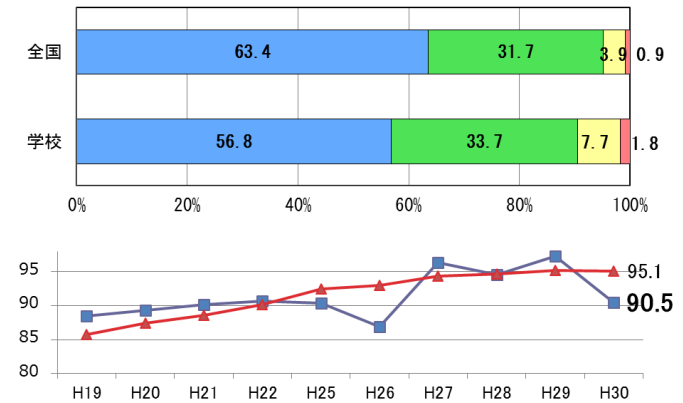
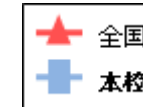
○自尊感情について・・・昨年から生徒の自尊感情を高めるために、生徒の活躍や成功を積極的に褒めるようにしてきた成果と考えられる。今後も褒めて伸ばす指導を継続し、規範意識も高めながら、次の段階である自己有用感の獲得へとつなげていく。

## 【課題が残った項目】

地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか。



学校の規則を守っていますか。



○地域・社会への関心等について・・・対応項目全てにおいて、全国平均を大きく下回っている。生徒は毎日勉強や部活動・習い事等で忙しく、都市化も進んでおり、おとなや地域の方と関わる機会が少ない。保護者や地域諸団体と協力し、生徒が地域行事に参加しやすい仕組みを研究していく。  
 ○人・時・ものを大切にできる生徒をめざして・・・「挨拶をすること」・「時間を守ること」・「自分や友達のよい所を肯定的に捉えること」・「美しい学習環境をつくること」など当たり前のことを当たり前にできる生徒、社会の一員として自分の責任を果たせる生徒の育成を更に進めていく。

## 分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

保護者の皆様もご承知のように、中学校では2021年度から新学習指導要領による学習が始まります。その理念は「何を学ぶか」ということだけでなく、学習する子どもの視点に立ち、(1)「何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能)」「知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)」以上に示す、三つの柱で整理しています。

この理念に従い、本校において、子どもの学びをより確かなものになるようにするために、(1)学ぶことに興味や関心を持ち「主体的な学び」を実現する。(2)子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」を実現する。(3)習得・活用・探究という学びの過程の中で、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」を実現する。以上3点をめざし、文部科学省国立教育政策研究所の千々布総括研究官よりご助言をいただきながら、本校では次の3点に重点を置き、全校的に教育活動の取り組みを進めています。

### (1) 授業改善について

昨年度から四人班を活用した主体的・対話的な深い学びの実現に向けた授業を展開しているため、自分の考えがうまく伝わるよう発表することについてはその成果が出てきている。しかしそれだけでなく、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、学習内容や教科独自の醍醐味に興味を持たせるような授業をめざし、各教科部会で思考・探求型の協同学習を研究・研修していきます。

### (2) 学習規律

おおむね守られているが、より落ち着いて授業ができるように今後も取り組んでいきます。また平成18年度よりノーチャイム制を導入しており、全校生徒に定着しています。ユニバーサルデザインの取り組み等、学習環境の改善も引き続き行ってまいります。

### (3) 家庭学習と学習習慣の改善について

昨年度より家庭での学習習慣の定着と自学自習力をつけるために本校独自の『家庭学習ブック』を作成し、毎日点検しています。保護者にも協力を求めながら、自主学習ノートなど、さらに方法・内容等を検討し改善していきます。

学習サポート員のアドバイスをもらいながら授業でわからない課題やパソコンから印刷した練習問題を復習できる放課後学習教室を週4日開室し、学習習慣と基礎学力の定着を支援していきます。